文京学院大学 News Release

「自立と共生」の理念を基に養う実践力

報道関係者各位

令和3年 12 月 23 日

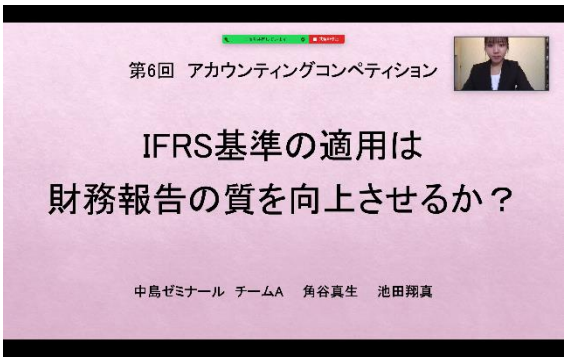
第6回アカウンティングコンペティション 学術的研究分野で受賞
経営学部中島ゼミ2年生が「審査員特別賞」

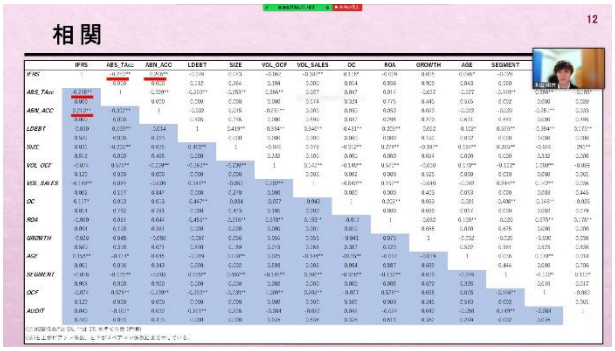
～“IFRS適用は、財務報告の質を向上させるか？:IFRS適用企業の実証研究”を発表～

文京学院大学（学長：櫻井隆）は、2021 年 12 月 19 日に開催された、会計分野における大学生の研究発表大会である第6回アカウンティングコンペティションの学術的研究分野にて、経営学部中島真澄教授のゼミ生が3チームに分かれて参加し、2年生の「チームA」が「審査員特別賞」を受賞したことをお知らせします。

中島ゼミでは昨年の同コンペティションにおいて、実証研究分野にて「最優秀賞」「学生最多得点賞」をW受賞しているため、2年連続の受賞となります。

アカウンティングコンペティション　概要





アカウンティングコンペティションで発表する学生（左：角谷さん　右：池田さん）

アカウンティングコンペティション（通称：アカコン）は、2016 年に創設された会計分野における大学生の研究発表大会です。第6回を迎える本年度は、2021 年 12 月 19 日にオンライン上で開催され、全 25 大学、31 ゼミナール、68 チームがエントリーしました。本年度のアカコンは、学術的研究分野・実践的研究分野の2分野に分かれ、予選と決勝の2回の審査により、最優秀賞・優秀賞などが選出されました。

会計学を専門とする経営学部中島教授のゼミナールに所属する2年生の「チームA」角谷真生さんと池田翔真さんが発表した「IFRS 適用は、財務報告の質を向上させるか？:IFRS 適用企業の実証研究」が、学術的研究分野で「審査員特別賞」を受賞いたしました。

審査員特別賞を受賞した「チームＡ」の研究内容について

本研究では、会計基準を国際財務報告基準（IFRS）に移行する日本企業が増加していることに関して、「日本企業の財務報告の質が IFRS 適用に伴い、どのように変化するのか」について検証しました。本研究では、これまで細則主義に依拠して会計処理を実施してきた日本企業が、IFRS 適用に伴い原則主義に移行することによって、経営者は裁量行動を増加させると予想し、修正 Jones モデルを用いて重回帰分析で検証しました。その結果、IFRS を適用することによって、IFRS 適用企業の裁量的発生高が増加したことが分かりました。このことから、日本企業経営者は、IFRS 適用に伴い、会計的裁量行動を増加させ、結果的に財務報告の質が低下したと結論づけました。

■経営学部中島ゼミ２年「チームＡ」　リーダー 角谷真生

この度は、「審査員特別賞」という栄誉ある賞を頂戴し、大変嬉しく思います。この栄誉は先輩や先生のご指導のお陰です。心から感謝申し上げます。また、日々の成果が実り、大変嬉しく思っています。今後も、皆様のお力添えを頂きながら努力し、来年では優秀賞、最優秀賞を頂けるように精進して参ります。

■経営学部中島ゼミ２年「チームＡ」　池田翔真

この度は、「審査員特別賞」を頂戴し、誠に光栄に存じます。教授や先輩方にはご迷惑ばかりおかけしましたが、いつも辛抱強く、そして温かくご指導いただいたお陰で受賞できました。この賞は、教授と先輩方のご協力があってこその賞だと思っております。これからも初心を忘れずに、来年の研究にも励んで参りたいと思います。